

2月の節分の翌日が立春で、立春から立夏の前日までが「春」
2008年はゴールデンウィーク中の5月5日が立夏。

4月の季語 汐干 しおひ

母たのし汐干にあそぶ子を眺め 星野立子

春の海は日差しが明るくて気持ちがいいですね。九十九里
浜のような広い浜辺には、千鳥もやってきます。



鳥の足跡をたどったり、
カニの穴を突ついたり、
貝殻や海藻を拾ったり...
したい春です。

ブラジル産のかわいいゴム
ぞうり“havaianas”
右は子供用、大人にはヒール
タイプのアニマル柄もある。
“havaianas”(アヴァイアナス)
の意味は、“ハワイアンた
ち”ってこと。



大好きだった!

子供の頃に好きだった一冊『ポボとフィフィナ』が、ひょ
っこり本棚に戻ってきた。

ハイチ島で暮らす男の子ポボと姉フィフィナの生活を綴った
話なのだが、エキゾチックな挿絵とともに、わくわくさせら
れたのが、熱帯植物の話・洗濯に使う草や焚き付けに使う
草など。小学生の私は、露草やヤマゴボウで布を染めたり、
ミカン汁で隠し文字を書いたり、に凝っていたから、南の島
にあるという植物に夢中になった。特に憧れたのが、“石鹸代
わりになるシャボン草”。もしや、とその辺の草を片っ端から
千切って揉んでみて、泡が出るかを試した思い出もある。



『ポボとフィフィナ』
1932年
ボンタムとヒューズ/作
E.シムズ・キャンブル/挿絵
木島始/訳 岩波少年文庫

シャボン草はまだ見たことがないが、同じ頃、食べてみた
いとドキドキした熱帯フルーツのドリアンやパンノキやマン
ゴスチンはもうおなじみ。特にパンノキは、ポリネシアから
カヌーで渡ってきた伝統植物のひとつとして大切にされ、ハ
ワイでは公園などにもよく植えられている。ハワイ名は「ウ
ル」。ポリネシア民話に「ウルという男が、自分をパンノキに
変え、飢饉を終わらせた」という話がある。

資格・検定というショーバイ

資格・検定といえば、司法、医師、公認会計士の三大国家
資格試験などをまず思い浮かべるが、いまは、国家試験、専
門職資格に加えて、就職に有利だといわれる資格も豊富にあ
る。なかには「英検」「漢検」のように、高校受験でも有利!
(内申点で1点加点など)として、小・中学生からの幅広い
年齢から受験されている検定もある。

こういう役立つ(ことが確実そうな)資格に加えて、学ぶこ
と自体がお洒落で楽しく、さらに仕事の役にも立ちそうな・
「ソムリエ検定」「野菜ソムリエ検定」「温泉ソムリエ検定」、
また、趣味性が高くて、自慢ができる・「ガンダム検定」「映
画検定」や、地域に関する検定・「湘南検定」「アロハ検定」
などもある。

こういう検定人気の背景には、受験側の「他者から認めても
らいたい」「名刺に入れられる肩書きが欲しい」といったニー
ズと、実施側の「検定料」という魅力的なインカムとがある
ので、ビジネスとしての裾野もどんどん広がるばかり。すで
に国内に2000あるいは3000の資格・検定があるといわれて
いる。

検定情報サイトも花盛りだが、なかで見やすいと思ったのは、
毎日検定バンク<<http://www.mainichikentei.jp/>>

すごい、と思ったのは、400もの資格・検定を取って「資格
王」と呼ばれる中村さんという人がいること。400の受験を
する日程調整だけでも大変なんじゃないかな・

『すごい検定258』中村一樹 著



志願者データ(年間)

漢検 約270万人(H19年度)
英検 約250万人(H18年度)
色彩検定 約7万8千人(H19年度)

比較のデータ

日本の人口(H19年)12,700万人
中学生年代の数 約360万人

憧れの食べもの



上は、オアフ島フォート・デラシー公園で見たパンノキの実。
でんぷん質が豊富で、1個で大人1日分のカロリーがまかな
えるという。写真の右側の実についている白いラインは、乳
液状のゴム質、これが見えると食べごろの目安になるそう。
幹からもゴム質が取れ、皮膚の治療薬や、伝統的なカヌー作
りの穴埋めや接着用に使われていた。

さて、食べるときは加熱して食べるのだが、味はおいしい、
というほどのものではない。